

## 発掘調査の概要

### 藤原宮外周帯の調査（飛鳥藤原第201－3次）

藤原宮の大垣を取り囲む外濠と条坊道路との間には空地があり、外周帯と呼んでいます。本調査区は、藤原宮の南面大垣と六条大路との間の外周帯に位置します。既設水路の改修にともなう事前調査で、調査区は、南北約2m、東西約97m、面積195㎡で、形状は北に隣接する里道に沿って緩やかに蛇行します。東一坊坊間路の推定線上にあり、先行東一坊坊間路東西側溝の検出が期待されました。調査期間は、2019年11月18日から12月12日までです。

調査区内は既設水路による削平が著しく、遺構の残存状況は良くありませんでしたが、古代の整地層を調査区の南壁で確認するとともに、古代とみられる遺構を検出することができました。

調査区の東部では、幅0.6～0.7mの南北溝を2条確認しました。東一坊坊間路推定位置の近くで、先行東一坊坊間路東西側溝に相当する可能性があります。しかし、いずれも深さが0.2m程度しか残存せず、出土遺物も少ないため、同側溝であると断定することはできませんでした。また、調査区の西部では、幅0.7mの素掘りの東西溝を検出しました。年代の特定はできませんでしたが、古代の遺構の可能性があり、これまで空地と考えられてきた藤原宮外周帯の土地利用について、新たな知見となります。このほか、調査区西端では古代の整地層を掘り込む溝状遺構から、藤原宮期の軒瓦が出土しました。

本調査は幅2mという狭い調査区ではありましたが、様々な知見が得られました。このような調査を積み重ね、藤原宮の実態を少しずつ解明していきたいと思えます。（都城発掘調査部 大林 潤）



南北溝検出状況（北東から）